

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇4月28日～

先週の相場は、米国と中国が関税に対して、少し柔軟な姿勢を見せたことでリスク回避的な動きはおさまりました。

中国が一部の品目(医療機器、エタンなど)の関税を適用除外することを検討しているとの報道もあり、相場は先週末にかけて、ややリスクオンの動きとなりました。

そして、日本に対しても米国は円安是正を強く求めるような動き(為替目標への言及など)はなかったことで、為替相場もドル／円が上昇しています。

相場上昇の裏には、円買いや株売りを仕掛けていた人達のポジション整理も重なったとの見方があります。

先週までの上昇は下落相場の戻りだった可能性があり、今週さらにリスクオンの動きが継続するかは不明です。

今週は、日銀金融政策決定会合があり、2 回目の日米貿易交渉が 1 日に予定されています。

相場が混乱している中での日本の利上げはないという予想が多いですが米国からの圧力もあり、日銀が円安是正のため利上げに動く可能性もゼロではありません。

2つのビッグイベントが重なる 1 日あたりに大きな動きが出るかもしれません。

また、日本は連休に入っていくので、利益確定など連休中のポジションを少なくする動きが出ることも想定しておきたいです。

そして、米国ではGDPや雇用統計などの重要指標の発表が多く、ニュースもしっかり見ておく必要があります。

米国では関税の影響から不況下の物価高(スタグフレーション)懸念が高まっており、5 月に利下げに動くかどうか注目が集まっています。

トランプ大統領は強く利下げを要求していますがFRBはインフレ再燃で物価上昇を心配しているため利下げを急ぐ状況でなければ、しばらく様子見の可能性もあります。

一時はトランプ大統領がパウエル・FRB議長をクビにするのではないかとという噂もあり、ドル売り要因となっていましたが、パウエル議長を解任する気は無いと表明したことでドル安の動きもおさまっています。

米国もトリプル安(米国株安、ドル安、米国債券安)となったことで、少し強硬姿勢を弱めて、相場の安定を図りたいという動きに出ています。

ただし、テクニカルで見ると下落トレンドが上昇トレンドに戻ったというような状況ではないため楽観しすぎるのは危険です。米国のニュースで相場が乱高下する動きはまだまだ続きそうです。

1 日は、労働者の祭典(メーデー)のため祝日の国が多くなっています。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル／円>

先週のドル／円は 139 円台後半まで下げた後は、底をうって上昇しています。
終値では 143 円台後半まで戻しています。このあたりは、日足で 3 月末あたりの高値からトレンドラインを引くとレジスタンス(上値抵抗)となります。144 円を超えて 145 円を回復できなければ、再度下落リスクが高まると考えておいた方がよさそうです。
下値は、143 円を割り込んでも 142. 3円あたりで下げ止まれば堅調な動きが期待できそうです。142円割れとなると141. 5円あたりが下値のメドとなり、ここも割り込むと140円割れのリスクがでてくるので注意がいります。

<気になるクロス円>

クロス円も先週は上昇してきているペアがほとんどで、リスク回避的な動きはおさまっています。ただし、この 3 週間で安値からかなりの値幅戻しているため、上昇がいつまで続くかは慎重に見極める必要があります。
ユーロは週足で見ても 164 円あたりで何度も頭打ちとなっているため、上値が重くなってくると反落リスクが高まります。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では3月鉱工業生産、日銀金融政策決定会合、日銀展望レポート、植田・日銀総裁定例会見などがあります。

米国では2月ケース・シラー米住宅価格指数、3月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、4月消費者信頼感指数、4月ADP雇用統計、1－3 月期四半期雇用コスト指数、1－3 月期GDP(速報値)、4月シカゴ購買部協会景気指数、3月個人消費支出(PCEデフレーター)、3月住宅販売保留指数、前週分新規失業保険申請件数、4月製造業PMI(改定値)、4月ISM製造業景況指数、4月雇用統計、3月製造業新規受注などが発表されます。

欧州ではドイツとユーロ圏で 1－3 月期GDP(速報値)、4月消費者物価指数、4月製造業PMI(改定値)などがあります。

ほかには、オーストラリアで3月消費者物価指数、1－3 月期消費者物価指数、中国で4月製造業PMI、カナダで2月GDPの発表などがあります。